

## 「一緒に行動する」

2015年9月12日(土)

会場：高円寺地域区民センター

参加：10名

司会・文責：野田

## 1. 概要：

- ・哲学カフェと哲学プラクティスの紹介をスタッフの堀越さんが行い、カレーを作って食べた後、哲学カフェを行いました。主に、他者との関わり合いにおける規範やルールなどの、人の行動を規制するものについて話し合いました。

## 2. 哲学カフェの前のイベント

- ・スタッフ各自による本イベント（カレー調理、食事などと哲学カフェ）の説明。
- ・スタッフの堀越さんによる哲学カフェと哲学プラクティスの簡単な紹介。
- ・カレーの調理。全6工程。各工程は4人で作業する。作業中の4人はアイスブレイクとして対話する。他の参加者はその様子を観察する。
- ・食事、片付け。

## 3. 「一緒に行動する」に関する会話

- ・皆で食べる方が楽しい。自分一人で食べる方が、食べることに集中できておいしさが分かる。
- ・カレーを取り分けるのは気を使う。
- ・自分一人でカレーを作る場合は野菜の切り方について自分なりのやり方でやる。人と一緒だと、自分のやり方を通していいかどうか分からなくなる。
- ・食べるのが遅いので、みなと食べる時は遅くならないよう注意する。
- ・自分だけ他人と違うのは良くない考える。
- ・集団でいるとそこに基準を見てしまう。基準に収まらないといけないと考えてしまう。（報告者注：基準という表現が使われていますが、見えない掟のようなものといった方が分かりやすいかも知れません。）
- ・はっきりした基準がない場合は、すり合わせを行う。
- ・基準があいまいな場合は、不安である。
- ・基準を守らなくても仲間外れにならない場合でも、基準を守ってしまう場合がある。
- ・基準を守るまたは守らないことが引き起こす、結果のネガティブさやポジティブさで基準を守るかどうかを判断する場合もあるが、基準の正しさ（公正さ）に基づいて基準を守るかどうかを判断する場合もある。
- ・基準といった固定的な観点があるが、自分が相手に影響を行使し、より良い状況になるよう相互作用するという観点もある。

## 4. まとめ：

- ・参加者同士でカレーを作って食べるというイベントがあったため、具体的な行為を起点に考察しました。集団の中での振る舞い方がどうあるべきかについて、活発な議論がありました。

以上